

令和4年度 学校評価実施報告書

学校名（岡崎中学校）

教育目標

「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高め、確かな学力・豊かな心・健やかな体を備えた生徒を育成する

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 「課題解決能力・コミュニケーション能力の向上」を目標に、各教科とも協働的な学びと個別最適な学びの両立を目指して学習活動をすすめてきた。全国学力調査や学習確認プログラムの結果は昨年度より全般的に向上しており成果として現れているように感じる。しかしながら、一部の教科については旧態依然とした授業展開が繰り返され、生徒の満足度も低い。各学年・各教科とも生徒にとって魅力的な授業実践になるよう、教科会を定例で実施し、授業について積極的に意見交換していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域での活動の様子や学校行事に取り組む様子を見ていると学校全体の雰囲気の良さを感じる。各種アンケート結果を見ても、教職員と生徒・保護者がよい関係であることが見て取れる。社会の中で学校に求められる役割が増加する中であるが、今後も地域と連携しながらより良い教育を推進していってほしい。。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月14日	学校運営協議会
最終評価	令和5年 2月 27日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』**重点目標**

「自ら学習する力・自ら考え表現する力を身につけさせる」
すべての教育活動の基本は『授業』であるという認識を生徒・教職員が、共に持つこと。その上で、『主体的、対話的で深い学び』をめざした授業づくりに取り組む。生徒が輝き、お互いに信頼感のある授業の実現を目指す。また、家庭学習を定着・充実させるために、各授業は予習・復習を前提としてを行うことを共通認識し、家庭学習と授業のつながりを重視しながら、学力の向上に繋げる。

具体的な取組

1. 生徒が日常的・主体的・効果的な学びを進めることができるよう指導し、GIGA 端末の環境を生かしたデジタル教材の活用や、生徒個々の考えを可視化した即的な共有など授業改善を進める。
2. 六校（岡崎中・近衛中・錦林小・第三錦林小・第四錦林小・北白川小）で作成した「構想図」を軸とした取組を実践し、教育課程の編成や指導形態を工夫・改善し、9年間一貫した体制を構築することで確かな学力の定着を図る。
3. 日常的な授業改善を図るために、教科会を基盤として教材研究を推進し、指導内容の精選や指導法の工夫と改善に努める。
4. 岡崎中ブロックで協力して、家庭での自学自習の習慣をつけるために、家庭学習の具体的な方法などを提示し、授業に繋げる家庭学習の推進を図る。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・全国学力調査・ジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果
 - ・生徒及び保護者アンケートの結果
- ① 家で自分で計画を立てて勉強している。
 - ② 授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。
 - ③ 学習した内容についてわかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の授業につなげることができている。
 - ④ 子どもは、授業の内容をよく理解し、興味・関心をもって取り組んでいる。
 - ⑤ 個に応じた基礎・基本の学力の定着を目指した取組が行われている。

中間評価

各種指標結果

学習確認プログラム（1年生はジョイントプログラム）の結果は各学年とも良好であった。
4月実施の1年生は全市平均より+5、2年生のStage 1は全市平均より+1、3年生の1stは全市平均より+5

全国学調では全市より国語+7 数学+5 理科+6と学力向上がなされてきている

前期アンケートの結果

- ① 全学年とも60%程度の生徒が肯定的な回答
- ② すべての学年で85%以上の生徒が肯定的な回答
- ③ 全体として80%の生徒が肯定的な回答
- ④ 全体として75%の保護者が肯定的な回答
- ⑤ 全体として80%の保護者が肯定的な回答

自己評価

分析（成果と課題）

主体的・対話的な深い学びをめざした授業づくり（改善）を推進するために、授業の冒頭に「めあて」を明確に提示し、終了時にはめあてに沿った「振り返り」の時間を必ず設定、授業の中の課題に対して「ペアワーク」や「話し合い活動」の時間を意識的に設定して課題を解決する能力を身に付けさせる等 年度当初より学力向上の取組を実践しているが、学習確認プログラムや全国学調の結果からも成果として表れているように感じる

分析を踏まえた取組の改善

小規模校の為に、同一教科での人員が少なく教科会が開催できない教科も多いが、年間2回の

	<p>校内公開授業週間を通して他学年・他教科の教員が相互に授業を参観し互いに学びあい他者からの違った目を刺激にして授業改善を更にすすめていきたい</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>生徒アンケートの結果（各教科の授業に対して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 授業での先生の指示や説明はわかりやすい ② 授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されている ③ 授業の中で、話し合ったり考えを発表する活動がある ④ 自分は主体的に授業に参加している
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>年度当初に授業参観をした際にも各学年ともに落ち着いた様子で授業に取り組んでいたことが印象に残っている。子ども同士がICT機器を活用したり話し合い活動を通して課題を解決していく学習スタイルを見て時代の流れを感じた。今後も学力向上に向けて頑張ってほしい。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>後期 生徒アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「社会」以外の教科では、全学年とも90%以上の生徒が肯定的な回答。残念ながら「社会」は1, 2年80%, 3年70%の生徒が肯定的な回答で他教科に比べて著しく数値が低い。 ② 「社会」以外の教科では、全学年ともほぼ100%の生徒が肯定的な回答。残念ながら「社会」は全学年で85%の生徒が肯定的な回答で他教科に比べて著しく数値が低い。 ③ 特に3年生「社会」に対しては75%程度の生徒しか肯定的な回答を得られなかつた。他教科では概ね90%~95%の生徒が肯定的な回答であった。 ④ 教科によって多少数値が異なるが、概ねすべての学年で85%以上の生徒が肯定的な回答
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>上記の数値に表れていますように、生徒たちも対話的な深い学びを望んでおり、そのことが主体的に学ぶ姿勢につながっている。授業の冒頭に「めあて」を明確に提示することや終了時には「めあて」に沿った「振り返り」の時間を必ず設定することは、授業を進めるうえで当然なされているはずだが、教師によってはそのことが生徒に伝わっていない教科もある。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>年度末反省を踏まえた校内研修や、管理職からの直接の指導を通して個々教員の最低限の力量を向上させることを次年度に向けて取り組んでいきたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>個別最適な学びと協働的な学びの両立など、未来を担う子どもたちに必要な力をつけるために先生方にも一層の授業改善が求められている。生徒たちにとって「わかる授業」「自ら考え学ぶ授業」を進めるために今後も努力して欲しい。</p>

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>文部科学省委託事業として、令和4年度「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研究指定</p>
--	--

を推進し、思いやりの心を育てるとともに自らを律することのできる生徒とその集団を育てる

具体的な取組

1. 道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」を充実させるとともに、他の様々な教育活動を通して、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していく。
2. 1人一台端末の環境を生かし、個々の思いや考えを可視化し即目的な共有を図ることにより、より多面的・多角的な「考え、議論する道徳」を充実していく。
3. 道徳科と各教科等との関連付けはもとより、新たな生き方探求教育（キャリア教育）や SDGsなどの視点から、家庭・地域や各種団体等の協力を得ながら可能な範囲で体験学習等を取り入れた授業改善を進める。
4. 望ましい人間関係の中で、生徒が集団の一員として協働する態度を育成するとともに、場と状況を考え、他者との関わりを大切にし、正しく判断し行動できる生徒を育成する。
4. 「人のために」行動することの素晴らしさを知り、そして見守り育ててくれている地域との連携をすすめ、地域に貢献できる生徒を育てる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・道徳授業で生徒が記入したワークシート
- ・生徒アンケートの結果
 - ① 人が困っているときは、進んで助けている。
 - ② 人の役に立つ人間になりたいと思う。
 - ③ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

中間評価

各種指標結果

全体として 85 % の生徒が肯定的な回答

全体として 98 % の生徒が肯定的な回答

全体として 90 % の生徒が肯定的な回答

自己評価

分析（成果と課題）

文科省の研究指定を受けて、これまで以上に校内研修で「魅力的な道徳の授業」について取り組んでいる。11月中旬には研究報告も予定しており今後も教職員で研鑽に励みたい

分析を踏まえた取組の改善

道徳的実践力を生徒に身につけさせられるように、日常の教科学習、行事などすべての教育活動の中で自らを律することができる生徒集団を形成するために、道徳や生徒指導の校内研修を年度の後半も充実させたい

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

生徒アンケートの結果

- ① 私は、人が困っているときは、進んで助けている。
- ② 道徳の授業は、自分の考え方や生活を見直す機会となっている。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今年度は文部科学省の研究指定を受けて「道徳」について研究を深めていると校長よりお聞きした。子どもたちが考え、議論する楽しい道徳の授業を進めてほしい。</p>
-----------------------------	--

最終評価

自己 評 価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>後期 生徒アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全学年とも 90% 程度の生徒が肯定的な回答 ② 全学年とも 90% 近くの生徒が肯定的な回答 <p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>今年度は文科省の研究指定を受け、道徳の授業で優れた教育実践をされてきた先生を高寧研修の講師としてお招きして、教師の力量を向上し「魅力的な道徳の授業」が実践できるように取り組んだ。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>生徒アンケートの結果を昨年度までと比較しても、道徳の授業についての生徒の満足度が向上している。授業で考え、議論した結果が生徒たちの資質向上につながるように、次年度以降も日常の教科学習、行事などすべての教育活動の中で自らを律することができる生徒集団を形成していく。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>行事や参観等で学校に来校した際に、生徒たちから気持ちの良い挨拶があり、教室や廊下などもいつもきれいな環境で学校教育が進められているのがわかる。どの生徒の表情も良く、豊かな心が育まれていると感じている。</p>
--------------	--

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	<p>命を大切にし、健やかな体を育てる健康教育を実践する。</p>
具体的な取組	<p>「いのちを守る」ことの大切さを基盤にして、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自らの健康のために食習慣や生活習慣の在り方を考え、実践しようとする生徒を育成する。 ② 1・2年生で「非行防止教室」、3年生で「薬物乱用防止教室」、全学年で「性教育指導」を系統立てて取り組む。 ③ 防災意識を高め、安全や防災教育の充実・発展を図る。特に、災害時に自らの命を守る自助の力、他の人の命を助ける共助の力を育成する。
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>生徒アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 朝食を毎日食べている。 ② 毎日同じくらいの時刻に寝ている。

- ③毎日同じくらいの時刻に起きている。

中間評価

自己評価	各種指標結果
	① 全体として90%の生徒が肯定的な回答
	② 全体として76%の生徒が肯定的な回答
分析 (成果と課題)	③ 全体として86%の生徒が肯定的な回答
分析を踏まえた取組の改善	昨年度同時期のアンケート結果と比較してもほぼ同程度の結果であった。コロナ禍で生徒本人や保護者が感染症対策として免疫力を高めるためにバランスの取れた食事、規則的な生活（早寝・早起き）を意識して定着していると感じる
	健康な身体づくり・けがの予防・バランスの取れた食事の大切さ、規則正しい生活（早寝・早起き）の実践など養護教諭を筆頭に健康教育を計画的に実践している
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
生徒アンケートの結果	生徒アンケートの結果
	① 私は、朝食を毎日食べている。
	② 私は、毎日同じくらいの時刻に寝ている。
学校関係者による意見・支援策	③ 私は、毎日同じくらいの時刻に起きている
	学校関係者による意見・支援策
	コロナ禍が続く中、地域での活動や部活動の制限などもあり子どもたちの体力低下などが懸念される。子どもたちの体力向上・健康教育推進に地域や家庭も学校と歩調を合わせていかなければいけない

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	後期 生徒アンケートの結果
	① 全学年とも90%以上の生徒が肯定的な回答
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	② 全学年とも80%程度の生徒が肯定的な回答
	③ 全学年とも90%以上の生徒が肯定的な回答
	生徒アンケートの結果では①～③いずれの数値も前期より向上している。生徒会からのアピールや健康に対する意識向上を目指した本校独自の「ヘルスウイーク」などの取組の成果も寄与していると感じる。
分析を踏まえた取組の改善	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	本校は、生徒の「給食」の喫食率も全市のなかでもかなり高い。養護教諭を中心に取り組んでいく「健康教育」を次年度以降も継続して、生徒の命を大切にし、健やかな体を育てる健康教育実践を進めていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>各種報道によると、長引くコロナ禍で全国的に子どもたちの体力が低下していると見聞きする。しっかりとした学力を身に付けることは大切であるが、子どもたちの健康がその礎となるので家庭と連携しながら健やかな身体づくりにも取り組んで欲しい。</p>
-----------------------------	--

(4) 学校独自の取組

重点目標	<p>生徒の自己指導能力を高める</p>
具体的な取組	<p>令和3年度に引き続いて京都市教育委員会より研究指定を受けた「生徒指導の充実に向けた実践研究」を継続して推進し、生徒指導の3機能チェックリストを有効活用しながら、「生徒の自己指導能力を高める」取組を全ての教育活動に取り組む。全教職員が、すべての教育活動の中で、生徒が自己存在感を得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を意識して設定する。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>生徒アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自分には良いところがあると思う。 ② 将来の夢や目標を持っている。 ③ 学校に行くのは楽しいと思う。 ④ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようになっている。

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ① 全体として77%の生徒が肯定的な回答 ② 全体として62%の生徒が肯定的な回答 ③ 全体として82%の生徒が肯定的な回答 ④ 全体として80%の生徒が肯定的な回答
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>生徒たちは落ち着いた環境の中で学校生活を送っているが、「自己肯定感」についての数値が若干低いのが本校のここ数年の課題であった。しかし、昨年度より継続して取り組んでいる「生徒指導の3機能」を活かした日々の教育実践の成果もあり数値が上昇してきている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>「生徒指導」についての研究指定に取り組んだのも、このことが要因であり今後も実践を続けていきたい</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>生徒アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 私は、自分には良いところがあると思う。 ② 自分は生徒会活動や学級活動に積極的に取り組んでいる。 ③ 私は、学校に行くのは楽しいと思う

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域や学校での子どもたちの様子を見ていても非常に穏やかである。一人一人の生徒が自信を持って行動できるように成長させていただきたい</p>
-----------------------------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>後期 生徒アンケートの結果</p> <p>① 全学年とも 75% 程度の生徒が肯定的な回答 ② 全学年とも 75% 程度の生徒が肯定的な回答 ③ 全学年とも 80% 程度の生徒が肯定的な回答</p>
自己 評 価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <p>年間を通して現在の岡崎中学校が生徒たちにとって安心・安全で居心地の良い空間であり，生徒たちがのびのびと落ち着いて学校生活を楽しめる環境でありたいと考えている。アンケート結果から，多くの生徒が学校に対して肯定的に感じていることがわかる反面，我々教職員が考えているより自己肯定感の低い生徒も多い。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>あらゆる教育活動の中で，自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を教職員全員が意識して設定できるよう，昨年度，今年度と「生徒指導の充実に向けた実践研究」の研究指定校として日々の実践に取り組んだ。全ての教職員の教育実践において「生徒指導の3機能」を意識して取り組みを続けたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域や学校での子どもたちの様子を見ていても穏やかで落ち着いた様子である。昨年後半から地域行事なども復活しつつあるので，地域で子どもと関わる機会が増えてくると思う。その際には，子どもをほめることを意識してきた。</p>

（5）教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>働き方改革を推進するため，教職員の意識改革を図ると共に地域・保護者との意識の共有に努める</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1人一台端末やデジタル教材を効果的に活用し，教材準備等の軽減を図る ・ 出退勤システムを適切に運用し，教職員の勤務時間縮減と管理を徹底する。 ・ 教職員定期健康診断の悉皆受診や要精検者への受診指導を図る。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレスチェック受検率 ・ 時間外勤務時間の前年度との比較
--	--

中間評価

	<p>各種指標結果</p>
--	----------------------

	<p>ストレスチェックについては今年度も昨年度と同じ100%の受検率を目指している</p> <p>時間外勤務についてはまだまだ課題が多い</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>小規模校ゆえに、一人一人の先生にかかる校務分掌・学年分掌が多いために主任級の教職員の時間外勤務がなかなか改善できていない</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>部活動の時間を従来に比べて短縮したり会議の精選などを通して時間外勤務が少しでも軽減できるよう今後も努力を続けたい</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>時間外勤務時間の昨年度との比較</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>以前に比べると、夜遅くまで学校の電気がついていることはなくなってきたように感じるが学校全体の取組として働き方改革に取り組んでいってほしい</p>
	<p>最終評価</p> <p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>残念ながら時間外勤務が大幅に縮小できとはいえない。小規模校ゆえに教職員の数が少なく、多くの仕事を強いられる現状が原因と思われる。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>教職員が回答した「ストレスチェック」では、現在の仕事は多忙だが一方で働き甲斐があると感じている方が多い。職場で相談しやすい雰囲気があるとの回答が多く、働くことに充実感を感じている方が圧倒的多数である。しかしながら勤務時間の縮減は達成すべき絶対的な課題である。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>次年度に向けて校長会で作成した「生徒完全下校を勤務時間終了時間に合わせる」という指針を本校も採用する予定である。これによって生徒が部活動等をする時間は短縮されるが、時間外勤務の縮減についてはかなり効果があると思われる。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校に期待されることが多い中で教職員の職務内容を削減し、働き方改革を推進することはとても難しいと思う。教職員が抱えている職務を地域で担えることがあれば協力していきたい。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

<p>重点目標</p> <p>他者へのいじめを行わないことはもとより、自分自身がいじめ防止等の取組の当事者となり、その解決に向けて主体的に行動できる生徒を育成する。</p>

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- ③ いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う。(生徒アンケート項目より)
- ④ 児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している

中間評価

各種指標結果

- ① 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答
- ② 年度当初に全校生徒に向けて校長より紹介している
- ③ 全体として98%の生徒が肯定的な回答
- ④ 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答
- ⑤ 学校だよりやホームページ、PTAメールを通して周知している

自己評価

分析(成果と課題)

今年度も「いじめ・不登校の未然防止」をテーマに校内研修会を行った。日々の教育活動において、生徒の居場所作り・絆づくりを意識した取組を継続することが未然防止に繋がることを全教職員で確認し、日々の生徒指導に対応している。

分析を踏まえた取組の改善

いじめアンケートに頼らず、日々の生徒の様子や保護者対応に心を配り、いじめの未然防止・早期対応を継続して行いたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- ③ いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う。(生徒アンケート項目より)
- ④ 児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

丁寧な指導を継続して、「いじめ」を見逃さないようにしてほしい

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ① 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答
- ② 全校規模の集会や学期の始業式などで全校生徒に向けて校長より紹介している
- ③ 全学年とも、ほぼ100%の生徒が肯定的な回答
- ④ 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答

⑤ 保護者へのアンケート結果では、97%の保護者が「いじめや不登校に対して学校は対処している」と回答している

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>「いじめ」はいつでも、どこでも起こりうる という認識を教職員で常に認識して「情報の共有」「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を心がけている。保護者対象のアンケート結果から、保護者が学校の対応を肯定的にとらえていただいていることが可視化され、教職員の励みにもなっている。</p>
分析を踏まえた取組の改善	<p>生徒及び保護者へのアンケート結果では、学校の対応や取り組みについて肯定的に考えていただいている。教職員全員の日々の教育活動の中で「いじめの未然防止」と「いじめ発生時の丁寧な初期対応」について慢心せずに次年度に向けても一人一人の生徒を徹底的に大変にして、心の通った生徒指導を続けていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>丁寧な指導を継続して、「いじめ」を見逃さないようにしてほしい。</p>